

Catch the eye 2014年12月

2014/12/3
(水)

経験的発見

先週の小春日和から一転、真冬の寒さ。一昨日の強い風で落葉が路面をおおう。冬が来たという感。次に控えるは春。そう思うと冬を越すたのしみが出る。22日は冬至かつ旧11月1日新月。2ヶ月後は節分。

知人からもらった雑誌に新月のことが書いてある。新月に伐採した木材は腐りにくい、悪い虫がつなかないという言い伝えがあるらしい。古くから経験的に人が気づき、知るようになったのだろうと思う。

経験的に気づき知ること、他にもたくさんある。諺になって、脈々と伝えられていることも多い。昨日だったか、ラジオで『病は気から』という言い伝えが科学的に証明できる発見があったと報じていた。

治療技術の発展にこの発見は貴重だけど、大抵の人は『病は気から』を暗黙のうちに了解している。個人レベルでもその人なりの経験的発見があるはず。

ただし、そういうことは人との会話に上りにくい、たがいに話し合える人でないと。まだ会社員だったころ、女子ばかりでランチをして時のこと。当時自分なりに気づいた女性の体のことについて話したことがあった。

話し終えて、何か意見を持つ気持ちになっていたら、聞いていた一人が、「はいはい、ご講義ありがとうございました」とパチパチと手たたいた。自分の居場所、住む世界は選ぶ必要があると気づいた瞬間であった。



2/12/5(金)

みんぱく



2/12/6(土)

満月



2014/12/8
(月)

南船場4丁目

朝からよく晴れた。陽射しのおかげで少し暖かい。そうだ二
駅歩こうと、心齋橋で降りた。いつもはそのまま御堂筋を北へ
進む。でも今朝はふと思い立った、かつての事務所ビルの方へ
回ろう。御堂筋を西は曲がり、つきあたりを北へ。

南船場四丁目がおしゃれな一角になり始めた頃に入居したビ
ル。5、6年前に通った時はそのままだったけど、ビルの名前
が変わっていた。全体がテナントのよう。オーナーが4、5階
に住んでいたのに、その様子はない。はなれてよく見ると、正
面壁に小さなプレートあり、「旧柴田ビル」。

ビルを売ってしまったのか、それともまだ持ち物なのか、
オーナー夫妻の顔が浮かぶ。通りを北へ進む。ずいぶんお店も
入れ替わった。相変わらず個性的なお店も多い、でも単ににぎ
やかな幟をたてるお店もある。街の様子も変わった。それもそ
のはず、もう20年になるのだから。



2014/12/17
(水)

自分の番

おそろしく寒い！換気扇が逆風をうけ、勢いよく回る。外を歩けば小走りになる。できれば、外へ出たくない。今日のような日の新聞配達、郵便配達は大変。本当にご苦労様という気分。

今年もあと2週間。忘年会の予定も半分は終わった。まだ半分も終わっていないのは今年の残り仕事。それをこなす12月、ようやく少し軌道に乗り出した。年内にはメドをつけなければと思う日々。

自分の仕事をやりくりする分には大したことはない。毎日親の介護にあたる人の話を聞くとそう思う。先日会社員時代の先輩から電話があった。早期退職してすぐに故郷へ戻り、お母さんと暮らす生活に入った。

それからもう20年ほど。この秋97歳で逝かれたとのこと。今度は自分の番、足腰のしっかりしているうちに、『一緒に海外旅行しようよ！』。看取りの大仕事を終えて、哀歓悲喜こもごもの様子が目に浮かぶ。

今度は自分の番。そう、みんな、そう。だからといって、焦ることなく、止まることなく、自分なりのリズムを保ちながらも、気持ちは高みにおいて終末への道のりを淡々を進む。そうありたいものです。

2014/12/18 スカイビル夕景
(木)



2014/12/22
(月)

冬至

今朝、窓がキラキラしていた。朝陽がいつもよりも輝いているように見えた。どうしてかしら。その時は気づかなかった。しばらくして、そうだ、今日は冬至だ。だからではないだろうけど、つなげて考えるのも一興。

冬至がくれば、後は新しい春を待つばかり。今日の節目をありがたく受けとめる儀式を一つ、梅林散歩。大阪城公園へ寄る。『冬至』はまだまだ冬眠中だったが、蠟梅は咲き始めていた。

冬に至り、春に向かう。季節と季節の間の中でも、冬から春のこの「間」は特別。季節に区切りはないけど、人の意識の中に区切りをつけようとする、つけてもかまわないと思える、そういう「間」。新年も目前。



2014/12/26
(金)

フランスならで
は？

街に門松がたった。いっきに迎春ムード。早いところから今日が仕事納め、大掃除。風はあるけど、寒さは緩み、よく晴れている。冬至もすぎたし、蠟梅も咲き始めたし、目をこらし肌をすませて、後ろにひかえる新しい春をまちたい。

さて、お正月休みは何をするか。会社員の人にはたのしみな長い休み。あの本を読もうと思っている人も多いはず。最初に本のことを知ったのはいつだったか、『21世紀の資本』。その後、話題沸騰、早々に短時間でわかるとうたった解説本が追随。よくあるパターンに笑った。

それにしても、人間社会はどこかでバランスをよるようになっている。うまくできているなあと思う。何か一方に行きつきかけた時に、物事の本質を見定めるよう導く逸材が現われる。あるいは、哲学が生活に根ざしているフランスならではともいえるか。

ところで『21世紀の資本』を日本で出したのは「みすず書房」。フランスものの多い出版社。面目躍如の感あり。